

国の財政基盤を 最前線で支える仕事

生駒 昭裕 Akihiro Ikoma

国税実査官

平成21年採用

課税第二部 資料調査第一課

Q. 現在の仕事から感じる国税職員の魅力は？

私の所属する資料調査課では、税務署では対応が難しい大口・悪質な調査困難事案等の不正取引を解明するため、機動的かつ効果的な調査手法を用いながら税務調査を行っています。ときには40～50人のチームを編成して、全国規模で調査を実施することもあります。

私たちの仕事は国の財政基盤を支えるための最前線に立つ、やりがいのある仕事です。加えて、税務調査において多種多様な商売をされている方々から直接話を聞くことができるなど、何より自分自身が成長することができるところが魅力です。



Q. 印象に残っている仕事や、そのエピソードは？

税務調査の準備段階で想定していた通りの不正取引を早期に把握できた事案や、税務調査に対する協力を拒む法人が行った不正取引を解明するために1年を費やした事案など、事案一つ一つにドラマがあります。いずれの事案も印象に残っていますが、中でも、調査に入った企業の社長の自宅等に隠されていた真実の取引が記録されたUSBメモリ等の証拠や、不正取引で蓄財した多額な現金を把握できたときは、とても達成感がありました。



Q. 職場内の雰囲気は？

今の職場は、自身の能力を最大限に発揮できるだけなく、個々の分析力や情報力を結集し、チーム一丸となってさらに高い成果を上げることができる、組織力の高い環境だと感じています。

近年では、資料調査課においても、若手職員や女性職員も多くなっており、一人一人の多様性が尊重され、「ワークライフバランス」の取組みも推進されています。「チーム料調」として資料調査課全体で助け合いながら仕事ができていることから働きやすい雰囲気だと感じています。



メッセージ Message

私たちは、「内国税の適正かつ公平な賦課及び徴収の実現」を任務の一つとしていますので、脱税行為を許さない、見逃さないという気持ちで職務に当たっています。「公正な判断力」と「不屈の精神」を持って、一緒に任務を遂行しましょう。